

# 国道3号植木バイパスについて

国道3号植木バイパスは、九州縦貫自動車道植木ICを起点とし、熊本市北区四方寄町に至る道路で、その一部は国道3号熊本北バイパス及び熊本西環状道路と結び熊本環状道路を形成し、熊本都市圏と県北部地域との相互交流及び連携に寄与、また、慢性的な渋滞の緩和や災害時の代替機能としての役割も期待される道路です。

平成11年度に全長9.3kmのうち、国道208号から熊本市四方寄町までの5.6km区間が事業化され、このうち2.3km区間については、平成23年4月に暫定2車線にて供用を開始しました。

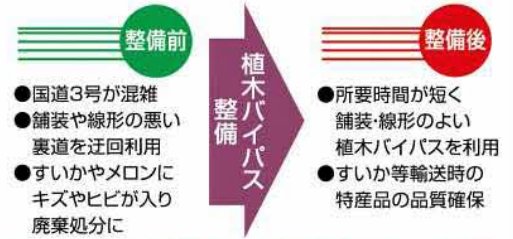
また、令和5年2月には熊本西環状道路と国道3号熊本北バイパスを結ぶ0.9kmが暫定2車線にて供用を開始しました。



## 物流効率化の支援

- 走りやすさの向上による疲労軽減、輸送・配達時間の短縮などにより、物流効率化を支援する。
- 「すいか」等特産品の輸送時の品質確保。

### ◆ 植木町の特産物「すいか」の輸送と植木バイパスの整備に対する期待



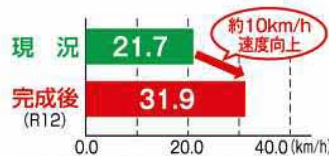
### ◆ 植木バイパス整備に沿線事業者が期待する効果



## 交通渋滞の緩和

植木バイパスへの交通転換により現道区間の渋滞が緩和

### ▼ 玉名～熊本方面の交通が植木バイパスへ転換



※ 旅行速度対象区間：国道3号植木バイパス並行区間  
※ 資料) H22道路交通センサス(混雑時)、国土交通省九州地方整備局資料

## 災害に強い道路網



熊本地震直後の国道3号(植木IC付近)

熊本地震により、九州縦貫自動車道が被災寸断されたことにより、県北方面からの車両が国道3号に集中し、深刻な交通渋滞を引き起こしました。国道3号植木バイパスの整備により、災害時の代替ルートの確保など、災害に強い道路ネットワークの構築が期待されます。